



菊池学園公開授業吾北小学校 校内研修

令和4年7月6日(水)、吾北小学校で公開授業と学校版寺子屋を行いました。

自閉症情緒学級の自立活動の授業でした。単元名は「1学期お楽しみ会を計画しよう」で、お楽しみ会でどんな遊びをするかについて、理由をつけて話したり、質問したりしながら、遊びを絞っていくという内容でした。



(笑顔で質問タイム)



(ホワイトボードを囲んで話し合う)

授業者より



菊池先生と話す大倉先生(右)

- 児童が指導案の想定とは違った反応を示したときは困った。とにかく失敗してもいいから授業が流れるよう、児童に声をかけました。普段から児童のことをよく知り、どのようなアプローチが効果的なのか普段から知っておくよう、これからも誉め言葉の声掛けや価値語、成長ノートに取り組んでいきたい。
- 今後は、話し合い活動の継続、児童の中に遊びを増やすこと、自分の意見を出させるために成長ノートを書かせること、価値語を使い評価と課題を伝えることをしていきたい。
- これからも、話し合い活動に取り組んで、コミュニケーション能力を育て、成長させていきたい。

研究協議より

Aグループ

- 視覚支援など、準備ができています。
- 理由を入れて、自分の意見が言えている。
- 先生の励ましの言葉があつてよかった。
- ペア2人でうまくいかなかった時は、4人になって柔軟に対応できていた。
- つい立ての向こうの児童も参加することができていた。

Bグループ

- 視覚支援があつたので、児童は見通しをもちやすかった。
- 一人一人が目標をもっているので、目標に向けてどう取り組めたか、振り返るとよかった。

Cグループ

- 見通しがもてる声かけができていた。
- 遊びのイメージがもてるようにすると、話し合いが盛り上がるのではないかと。
- 司会の進め方の手立てができていた。

*質問 学習リーダーに取り組んで、子どもたちの変化はあるのか。

→支えようという気持ちや高学年としての自覚が見られるようになった。



講師より

- 先生の立ち位置を考えましょう。話し方の型を後ろに貼ったのがよかったので、先生も、後ろに立つと、子どもはみんなの方を向いて話せます。
- 今回のような活動の場合、机があることで対話が難しくなります。机を前に向けたまま話し合うのと、自由な立ち歩きで話し合うのとでは、距離感がちがいます。4人しかいないのに、20人のクラスの形態になってしまいます。子どもが向き合って話せると、安心感が出ます。

自由な立ち歩きで話し合うと、距離が縮まります。



- 質問の場面で、教師のモデルがあればいいですね。先生も質問し、子どもと一緒に授業を作っていきます。
- 今日の活動では、学習リーダーが必要だったのでしょいか。学習リーダーになると、定型文(型)になってしまいます。その子らしさを引き出し合えるように。学びに向かう活動になるようにしましょう。
- 質問は、つい思いやりのない言い方になりがちです。相手が喜ぶような質問をさせましょう。「あなたの言うことはわかるのですが、私は~思います」というような、プラスに向かっていくコミュニケーションがとれるようにしましょう。



あなたの言うことはわかるのですが、僕はこう思うのです。

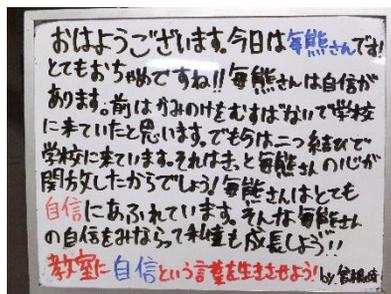
相手のことを知ると、
プラスのコミュニケーションに向かいます

一人一人のキャラが生きる教室

菊池学級を参観した先生は、「私は〇〇さんのファンです」「私は△△さんが好きですね」と、おっしゃいます。菊池学級では、一人一人キャラが立っています。でも、まとまっているのです。

右の画像は、「ほめ言葉のシャワー」の日めくりカレンダーです。また、ホワイトボードの画像がありますが、これは教室の入口に貼っているものです。これらの表現の中に、「その子らしさ」が出ています。

そして、クラスの子どもたちはお互いの「らしさ」を理解しています。菊池学級の動画を見ると「僕は～なんですが、あなたはどうですか？」というように、前フリに自己開示をしたり、相手のことを考えた発言をしたりします。友達への質問タイムにしても、そもそもその子の好きなものが分かっているのだから、そこを掘り下げていくのです。そういう学級では、質問や表現が優しいのです。



子どもの成長の責任は教師にある

成長ノートとは別に、家で書く「私の本」に取り組んでいました。自分の思いを自由に書くノートです。野田美沙希さんが、その「私の本」に「クラスのみんなが変わったこと・成長したこと」を55個書いていました。私(菊池先生)はそれに対して10個ずつ、「なぜそう変わったのか、どういう成長なのか」を教師の目から見て書きました。

教師が何もしなければ子どもは育ちません。覚悟を持って子どもの前に立ちましょう。

1. 自分の意見をしっかり持つことができるようになった

- か×か、AかBか、と自分の立場をまずはっきりとさせた。
- 箇条書きで理由をたくさん書かせた。
- 理由の数の量を全員の数が合うまで確認をした。
- 「書いたら発表」のルールを作り徹底させた。
- 指名の仕方の変化をつけ、「全員発言」になるようにした。
- 自由起立発表を多用して、「自分から立って話す」という発言の力と心の強さを要求した。
- ノートを持ってこさせて○をつけ、書いたことに自信を持たせるようにした。
- 黒板に書かせて発表させ、考えを全員にはっきりと示すようにさせた。
- 発問指示を短文で話し、考えたり作業したりしないといけない状況に追い込んだ。
- 自画像画を活用して「自分の意見」に責任を持たせるようにした。

(菊池省三『「成長してきたのか?」～「55」への「550」の書き込み～』より抜粋)

できるようになったことに対して、菊池先生がしたことを返している。

座ったまま話しても、盛り上がりません。自由な立ち歩きで話し合っこそ、盛り上がります。子どもを見くびらず、信じてたくさん話し合わせましょう。



参加者の感想より(抜粋)

学級、授業づくりについて

- 異学年での授業でしたが、子ども同士お互いのありのままを受け入れる場面があり、日々先生が大らかに受け入れて、子ども達の関係性も良いと感じました。
- 一人一人の特性を子ども達同士も認めあった関わりができていた。
- 情緒学級での、授業は大変だが、異学年同士の学び合いができるのもっとよくなると思った。
- 児童の特性に対応した授業づくりの必要性を感じた。
- 学校や地域全体で子どもを見守り育てていこうとしているのが感じられました。子どもの実態に合わせて課題を決め、できたことをみとっていくとさらに自信がついていくのではないかなと思いました。

学校版寺子屋について

- 菊池学級の動画をみた後に、児童の『私の本』を拝見したことで、菊池学級の学級づくりのきめ細やかな指導と、その成果としての『らしさ』溢れる姿に納得がきました。久しぶりに菊池寺子屋に参加させていただき、大変勉強になりました。
- 『成長してきたのか?』～「55」への「550」の書き込み～菊池先生の実践が沢山詰まった貴重な資料で、深掘りしたい内容です。
- 自分を解放することができるクラスづくりをこれから目指していきたいと思った。
- 自分のことを話すためには、安心できる集団づくりが第一で、そのために教師がどう働きかければいいのかと考えさせられた。
- 自分らしさを発揮するとはどういうことか、改めて考える機会をいただきました。資料「成長してきたのか?」の書き込みの内容がすごかったです。

参考になった点

- 菊池寺子屋と、授業講評の20分間、とても密度の濃い時間を感じました。子どもの見取り、声かけ、やる気の引き出し方などを、若い先生を子ども役に見立てて模擬授業をしてくださったように感じました。ありがとうございました。
- 菊池先生のように、相手を否定しない言葉のチョイスを、大人にも子どもにもできるようになりたいと思いました。
- 菊池先生の実践は具体的で目指すところが明確だと思いました。成長してきたのか?の取組を咀嚼(そしゃく)してできるところからやってみたいと思います。

研究所より

吾北小は特別支援学級で自立活動の授業を公開してくださいました。担任の先生をはじめ、学校全体で一人一人の個性を大事にし、特別支援教育を視点に置いた学校経営を意識されているのだと感じました。吾北小の皆様、ありがとうございました。

いの町教育研究所 Tel893-1922(教育委員会事務局内) Tel893-0255(資料センター)